



ご案内

2月19日(土) 13:00~

自宅事務所にて茶話会を行います。
気軽に**田中けん**とお話してください。(予約制)
ご興味ある方は、事前にご連絡をください。

区議会

「一人の会」無所属

タバコの煙でお悩みの方は、
お気軽にご相談ください。

目次

尖閣事件に端を発して、日本の国防・外交を考える……1

尖閣事件に端を発して、日本の国防・外交を考える

いつ見ても、日本の国会は内政の話題ばかりです。福祉・年金・教育、どれも重要なテーマであることは否定しませんが、国会だからこそ、もっと国防・外交について語り合うべきでしょう。

◆地方分権の意味

去年の2010年に参院選挙がありました。どの政党も「地方分権」を1つの政策的流行のように主張します。それならば、どんなに分権しても地方政治では扱えない国防・外交について、国政選挙の候補者たちは語るはずなのです。地方分権と国防・外交は両方語って一組の関係です。

しかし、参院選挙を通じて聞こえてきたことは、消費税の話や民主党政権に対する批判ばかりでした。国防・外交について、選挙戦を通じて活発に議論の対象となったという印象がありません。だからこそ、「地方分権は政策的な流行に過ぎない」と、私のような地方議員に茶化されるのです。

地方分権を言っておきながら、まず第一に福祉を語るなんてことは、論理の整合性から言ってもありえません。

親が子どもに、「あなたのやりたいように自由に生きて良いんですよ」といいつつ、

「高校は〇〇高校に行きなさい。
大学は△△大学へ行きなさい」

と言うようなものです。

票につながりやすいと考えられている福祉・年金・教育などが国政において真っ先に語られている日本政治の不毛さによって、国防・外交が語られないのと同様に、地方分権も真剣には考えていないのです。

しかし、どれほど国民の関心が少なからうと、国防・外交に関して論じない国会に何の意味がありますでしょうか。日本政治の危機とは、まずは眼前の政敵となる他党を追い込むこみ、有権者の票をより多く集めることに「しか」関心がない議員が多すぎることです。

どの政党であれ、地方分権を是とするならば、地方に任せるべき政策は、極力語ることを止めて、その分だけ数多く、国防・外交について語るべきなのだと、私は思うわけです。

◆海上保安庁について

尖閣諸島中国漁船衝突事件における一連の事実からも明らかのように、日本の国境を実際に最前線で守っているのは、海上自衛隊（以下、海自）ではなく、海上保安庁（以下、海保）です。海保による支那中国人船長の逮捕で、「尖閣諸島は支那中国の領土だから、この様な対応は止めよ」と、支那中国は抗議しました。

「船長の逮捕で外交問題化するのは必至の情勢だ。同保安部はチャン船長の身体を8日早朝に石垣市に移し、取り調べを本格化させる」

当時の新聞記事では、このように言われていましたが、外交問題にしたいのは支那中国の主張であって、日本の立場ではありません。

この問題は、支那中国人による漁船が日本国内で違法操業し、それに対して海上保安庁が適切に対応したという「内政問題」として処理すべき問題でした。

しかし、結果は海保の努力むなしく、証拠となる衝突漁船は返してしまい、勾留延長期限が5日間残っているにも関わらず、海保が命がけで逮捕した船長も釈放してしまったのです。

船長釈放の決定は、検察独自の判断であり、この判断を容認し、この決定に政府は関係していないと仙石由人官房長官は強弁しました。

ちなみに日本人が逮捕された場合は、被疑者のほとんどは最長の23日間勾留されます。同胞である日本人の人権よりも支那中国人の人権を尊重した民主党政権に、弱腰外交の一端を見ることができます。

このようにふがない民主党政権によって、命がけの仕事が報われなかった海保ですが、実態についてあまり知られていないので、基本情報をお伝えします。

海保の仕事は、海上における警察・消防・救急の全てを行います。更に海洋の科学調査なども行います。

海保が対象とする範囲は、領海(0~12海里)+排他的経済水域(12~200海里)。面積、実に448万km²。これは領土の約12倍、世界第6位の広さとなります。

海保は1万2600人、年間予算1800億円。ちな

みに、海自は44万人、年間予算1兆1000億円。江戸川区は、3854人、一般会計予算は、2100億円。イージス艦1隻1300億円。

海保はいかに少ない人員、少ない予算で、広範囲にわたり活動しているかよくわかります。

尖閣事件を機に、海保の存在は大きくクローズアップされました。海保の存在が重要だと国民に認識されました。不法な外国船による領海侵犯に対して、まず最初に動くのは海保です。

求人については、やはりその広すぎる守備面積により、転勤が避けられないため、一部の人たちを除いて人気がないそうです。装備も少ない予算の中から捻出しているため、最新装備ばかりではありません。

「もし他国の軍隊が攻めてきたら、まず真っ先に対処するのが海保です。そして海保が全滅したあとにやってくるのが海自です」

海保の中には、自分たちを最前線の全滅部隊だと、自嘲的に認識している人もいます。そんな海保の予算が年間1800億円というのはあまりにも少なすぎます。せめて1兆円の予算をつけて、全滅せずに済む装備を持って、日本の海を守って欲しいのです。

◆普通の日本人にして欲しいこと

もし少しでも日本を愛する気持ちがあるならば、是非、日本中を旅してください。それも端から端まで。「国境」を意識できる、民間人でも行ける日本の最北端、最南端、最西端、最東端や対馬には、是非行ってください。国境概念を、私はより多くの日本国民と共有したい。

私はまだ沖縄の離島には行ったことがありません。それでも、日本および国境に対する思いは尖閣諸島にまで及んでいます。機会があれば、私は尖閣諸島に行きます。何をやるわけでもなく、単なる観光であったとしても、その地を踏みしめたことがあるかないかで、人の意識は全然違ってきます。今一度、日本とはどこからどこまでを示す言葉なのか、国境の島や国境の地域に行くことで、ここで日々生活している日本人と会い、漠然とした緊張関係を実感してください。

その地に行った体験があつてこそ、領海侵犯されたときに外国船籍に対して、一国民であっても毅然とした考え方ができます。日本を愛する世論を作ることに、大いに役立つはずですよ。

